

沖縄研修報告書

施設ケアマネージャー 東 智子

本部園は、白寿苑と一緒に30年の歴史があり、実際訪れてみると歴史ある施設で時間がゆったり流れていると感じました。利用者様も職員の方々も研修に来た私達を笑顔で温かく迎えて下さり、いろいろお話をして頂きましたが、方言が独特でアクセントも愛知県とは違う為、お尋ねをしたり、中にはわからないまま聞き流してしまう事もありました。小豆や大豆等の豆類がいっぱいケースに入れて何カ所かに置いてあり、指のリハビリとして大きさや色で分ける動作を1時間以上食事時間になるまで行っている利用者様もお見えでした。話をしながらでも指を動かしておみえでした。床に豆が落ちていましたが拾って食べる方はいないそうです。指のリハビリになっていいなと思い、白寿苑に置き換えてみると食べてしまう利用者様がいたので難しいとその場では、思っていました。よく考えてみると行う時だけ出して、職員の見守りの中で行う事が出来れば、良い集中になり、良いリハビリになるかもしれないと思い、一度チャレンジしてみたいと思っています。

備瀬課長からは、社会福祉法人常磐会 倫理綱領の説明(別紙参照)を聞き、30年の節目に本部園のロゴマークと本部園音頭も作られ、本部園音頭は、聴いてはいませんがCD化されたそうです。本部園は、本部町の方が入所されており、職員も本部町の人が多い為、つながりが密なようです。研修中に若い職員の小さい頃を知っているおばあさんが入所され、その家族とわきあいあいと話をされ、安心されて見えました。家族と親密に話が出来る関係でもあるようです。

1日目に本部町のさくらの花見に同行しました。花見が午後からだったので午前中に外出予定の女性3人の方が、機能訓練士の看護師さんにリハビリメイクをしてもらっていました。最初は、嫌がる利用者様が多く見えたそうですがリハビリメイク＝ドライブに行くという繋がりがあるので喜んで化粧をするようになったそうです。この日も化粧しているところをみていると「こんなおばあに化粧しても変わらないよ。化粧してどこ行くの」とまんざらでもない様子で嫌がることなく、化粧で、お綺麗にされていました。「化粧＝外出」女性ならば、普段はしなくても外出の時はきれいにしてお出掛けたいと思っているのではないかと気づかれたように思います。祝い事、外出時等で口紅から初めてみるのもいいかなと感じました。花見では、やはり花より団子で花を見ているより、食べる。特別な時にしか食べないという、やぎ汁に挑戦しましたが独特のにおい、味の為、私は一口だけで職員さんは、おいしいと食べてみえました。やぎ汁は、滋養強壮がある為、食べ過ぎはよくないという事でしたが、せっかくなので花見に来た利用者様に少し食べて頂いていました。

さくらの花は、今が満開の時期で平日にも関わらず賑わっており、とても良い季節に研修に行く事が出来たと思いますし、今年は、沖縄のさくらと犬山のさくらとで2度花見が出来るので嬉しく思います。

2日目にふるさと訪問に同行しました。ふるさと訪問というのは、利用者様が行きたい

ところや自宅等への外出の夢を叶える行事で、城間ケアマネの企画だそうです。今回は、リクライニング式車椅子使用、痰のからみもある寝たきりの方でした。元気だった頃、自分も手伝っていた飲食店(ハワイ)や家に行きたいと話をされていたそうで、昨年の夏から検討して、この日を迎える事が出来たそうです。この日は、快晴で温かく、本人の状態も良く、城間ケアマネと機能訓練士の2人が付き添い、痰の吸引の必要な方なので看護師(機能訓練士)と一緒に、もちろん痰の吸引器も用意していきます。

まず、飲食店(ハワイ)で息子夫婦、孫夫婦と対面し、その後息子夫婦と家に行き、体調が良いので家に上がって過ごす事も出来ました。息子夫婦は、大変喜んでみえ、感謝されて見えました。私は、同行出来、昔ながらの家屋をみる事も出来たので良い体験が出来たと思います。本部町内で近い事もあるので実現可能なのかもしれませんが。

ファーマーズマーケット視察では、愛知県の店には、並ばない海ブドウや名前の知らない野菜等がいっぱい並んでいて見ていて楽しかったです。食材も独特でこちらではホットケーキミックスが店に並びますが沖縄では、サンダーアンダーギーの元が売られており、豚足、シークワサー、黒糖類、ちんすこうなどがありました。3日間いろいろな沖縄料理をごちそうになりましたが私にとっては、初めての料理ばかりでした。沖縄のぜんざいもこちらの物とは違い小豆というよりは金時豆位の大きさの煮豆が器の底にあり、その上にかき氷が山盛りのっているものでしたがさっぱりとしていて美味しかったです。温かい餅入りぜんざいやういろなどの食事の話で盛り上がりました。飲み物と言えば、さんびん茶、シークワサー、アセロラのジュース等を飲みました。

利用者様数名にお声を掛けて、ゆっくり話をしましたが、年齢を聞くと90歳以上でもお元気で朝食後毎日の日課のようで廊下を散歩される方、機能訓練士の方とリハビリをされる方が見えました。どなたも気さくにお話しをして下さり、「帰らんとここにいんしゃい」と言って頂きました。沖縄では、カジマヤーという旧暦9月7日に97歳の方をお祝いする行事があります。結婚式のように車の後ろにひもにつけた缶をいっぱいつけて町中を走り、家族総出で盛大にお祝いをされるそうです。

3日目に退院されてきた利用者様が一日500ml(食事以外)と水分制限があるので関係職員で緊急カンファレンスを行い、参加させて頂きました。その方は、自分で自由に動いて水を飲むことが可能な為、職員の方でしっかり決めて対応しなければならず、まず本人に病状を説明し、協力していただく。500のペットボトルで測って氷を作り、欲しい時に渡す。ストレスをためないように気に掛け、レクを充実して水分要求を減らすなど、取り決めを行いました。この利用者様は、入院される前、水分を沢山飲まれていたようです。

本部園の計画書は、介護度の低い方は、備瀬課長、重度の方は、城間施設ケアマネが担当されているそうです。計画書の作成は、白寿苑と変わりはないようですが、まだ介護士が作成するところまでいっていないとの話がありました。利用者様に対する企画等も介護士から上がってこない為、機能訓練士と相談し、企画をしているそうです。介護士、看護

師間の調整も難しいと言われてみえました。しっかり研修する時間がありましたが行事に参加することが多かったので実際の実務についてしっかり聞く時間が持てませんでした。沖縄の風土や食物、人柄等違いますが、この研修をきっかけに施設ケアマネ同士話をして、利用者様にとって満足して頂けるサービスが提供出来るように努めていきたいと思えます。

3日間研修に心より感謝いたします。

沖縄研修報告書

管理栄養士 瀬木 泉

1月27日～2月1日迄沖縄にある特別養護老人ホーム本部園に研修に行かせて頂きました。到着した日はとても寒く南国のイメージとはかけ離れていましたが、天候が回復するにつれ日中はとても暖かく1300キロ離れた地に居る事を実感しました。

初日は朝礼に参加しその後配食サービスが10:00に出発するのを見送りました。安否確認を重視している配食サービスは、町の委託により行われています。委託の昼食50食への自己負担額は¥250～300だそうです。独自に行っている夕食10食に関しては自己負担額¥600を頂いているそうです。委託分の昼食に関しては町に請求し施設としては1食あたり¥900を貰っているそうです。独自で行っている夕食の配達にはデイサービスの送迎のついでに届けられているそうです。配食を持って行くことにより利用者のお宅を訪ねる接点が出来、今後の施設利用にも結びつく良いきっかけになるのではと感じました。

その後施設の中を長濱栄養士さんに案内して頂きましたが、廊下の至る所に大豆と小豆の入ったボックスが置いてあり、元気な利用者様はトレーに小豆だけを上手につまんで出されていましたが、異食される方が全くいない事に驚かされました。ですから豆の入ったボックスが蓋はしてはああるもの廊下の至る所に置いておけるのだと思いました。この日もう一つ驚いたことは、昼食で出たソーキそばのソーキ（スペアリブ）を利用者様はきれいに骨から肉を取って食べられていた事でした。栄養士さんに尋ねると「ソーキだけは骨付きで大丈夫ですが、魚とか他の物は駄目なんですよ」との事でした。やはり昔から食べ慣れている好きな物は、いかなる状態に於いても工夫して摂られるものなんだなと感じ、白寿苑の方が粥・刻みでもお寿司・赤飯はそのまま摂られるのと同じ事で好みの物が地域によって違ってても根本は一緒であることを知るきっかけになりました。その日の午後は、本部八重岳桜まつりに利用者様とミニドライブに出掛けました。前日に立ち寄った名護では、ほとんど咲いていなかった桜が、本部では八重の鮮やかなピンクで咲き誇ってとても綺麗でした。「花より団子」はこちらも一緒に、焼き鳥・鯛焼き・タンカン・やぎ汁を皆で囲みました。初体験のやぎ汁は臭いにビックリしましたが、よもぎの葉&生姜&塩をトッピングする事で、臭いもマイルドになりましたが、舐める程度しか飲む事が出来ませんでした。

したが、皆さんは美味しそうに飲まれていました。その後園に戻って、大城満子様が「車椅子を押して部屋まで送って」と言われるので行きますとカジマヤーの時の物だと言われ紅型の着物の上に赤い羽織を着て頭には羽織と同じ生地の手巻を巻いた写真と風車を見せて下さいました。「カジマヤーは何ですか?」と尋ねると「数えの97歳のお祝いだ」との事でした。写真には軽トラックに風車を飾って、本人も同乗してパレードした様子が撮られていました。何故風車なのかを職員さんに尋ねると「童心に戻るといふ言い伝えにより風車を持たせたのでカジマヤー（風車）です」との事でした。パレードの最中に会った人は風車が頂けるそうです。長寿の県沖縄を象徴した風習だと思いました。本部園の廊下にも沢山のカジマヤーの方の写真が飾られていました。

2日目は、献立表を拝見させて頂きましたが、聞き慣れない食材が沢山ありました。ハンダマ＝葉の裏側が紫色の野菜で茹でると粘りが出てモロヘイヤの様なもの。島にんじん＝普通の人参より細く色も薄い黄色の大根。田芋＝水田で栽培される里芋 etc...長濱栄養士さんに質問して色々教えて頂きましたが、午後からのマーケット視察で実際に見る事が出来とても良く解りました。月桃の葉は笹の葉の様で防菌効果があるので餅が包んであったり、パイナップルは野菜として利用するので青い物が売られていたり、氷ぜんざいは小豆ではなく金時豆の冷たいぜんざいの上にかき氷が乗っていたりと、所変われば品変わるで、やはり「百聞は一見に如かず」です。

デイサービスも見学させて頂きましたが、沖縄の言葉の百人一首の様な物が作っており

- ・ニンタイホータイ＝ごろごろしている
- ・チーゴーゴー＝出血する
- ・アマハイクマハイ＝あちこち動きまわる
- ・トゥルバイカーバイ＝ボツとして
- ・ナンクルナイサ＝なんとかなるさ

レクリエーション時に活用されている様でした。エコ活用として空の丈夫な段ボールを何個か足置きとして使われているのも良いアイデアだと思いましたが、色を塗ったり、綺麗な包装紙を貼ってみたりして空箱と解らない様にしたらもっと良いのかと思われました。

本部園の外周に戦争の遺物の見張り台（監視哨跡）が1階の部分は埋もれ2階の部分だけが残って在ります。研修期間中に大阪から戦争を風化させない様にと視察に来て見える方達とお会いする機会がありました。オスプレイに反対し座り込みをして警察に連行される沖縄の方のDVDを観たり、本部園の近くの伊江島上空を飛んでいる話や利用者様が命からがら逃げまどった体験を思い出したくないと言いながら話して下さったのを聞くと、同じ日本に生まれたのに幸いにも米軍の基地が無い愛知県にいますので他人様の様にオスプレイの配備について考えていた自分が恥ずかしく思われ、敗戦国として様々な試練がある事を受け止めて、後々に伝えていかないといけないのだと思いました。

今回の研修では施設の事だけでなく、戦争・基地問題などについても色々考えさせられる事となりました。